日刊 動労千葉

80.1.24

No. 332

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二-八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四三(22)七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

自衛隊の海外派兵の第一歩 リムパック（環太平洋合同軍事演習）参加を許すな！

リムパックとは……

リムパックとは、環太平洋合同演習＝RIMOF THE PACIFIC EXERCISEのことでアメリカ、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドの4ヶ国が参加し、一九七一年以降6回にわたって中部太平洋において行なわれてきた大合同軍事演習のことである。

演習規模は、毎回増大され、前回の一九七八年にはアメリカを中心に参加艦船42隻、航空機225機、兵員2万2千名という大規模なものとなっている。

演習期間は、約1ヶ月という長期間である。

演習内容は、参加各国が交互に仮想敵となって艦隊演習をくりかえし実施するものである。

しかも、この大規模な合同軍事演習は、事実上の統一した指揮官＝調整官のもとに日本も含めて5ヶ国から数万の兵員と数百、数千の空母・巡洋艦・潜水艦・航空機など、超近代兵器を総動員して1ヶ月という長期にわたって実施される総合的な一大軍事演習である。

本格的な海外派兵の第一歩！

このような総合大軍事演習＝リムパックに自衛隊を参加させることをもって、政府・防衛庁は、自衛隊の海外派兵の突破口としようとしている。

去る12月11日、政府は、リムパック参加にあたっての「防衛庁見解」を発表したが、その内容は、政府の判断ひとつでどの国とでも自由に軍事演習が出来る。つまり、どこの国へでも自衛隊の派兵が出来るという極めて反動的なものである。

すなわち、リムパック参加は、「日米安保体制に基づく自衛権の範囲内での行動である」とし、日本と安保条約を結んでいないオーストラリア、カナダ、ニュージーランドとの合同演習については、「自衛隊の戦術技量の向上を目的とした外国との共同訓練である」としている。

そして、今後、日韓、日米韓、ASEAN諸国などとの合同演習も可能であることを公然と認めているのである。

政府・防衛庁は、昨年末に今春3月、中部太平洋で行なわれる環太平洋合同軍事演習＝リムパックに自衛隊を参加させることを正式に決定した。そして、この大合同軍事演習に参加する護衛艦2隻が1月25日横須賀基地を出発しようとしている。われわれは、この自衛隊のリムパック参加を日本の労働者・人民を再び侵略戦争にひきづり込もうとする、海外派兵の第一歩として受けとめ反戦・反自衛隊の闘いを一層強化し政府・支配階級の危機にかられた反動的な戦争政策を阻止しなければならない。

このことは、政府の判断で、いついかなるときでも、いかなる国へでも演習という名をもって自衛隊の派兵が可能であることを公然と表明したのである。

こうして、日本の労働者人民の反戦意識を無視し、ふみにじり、戦後の歴史を大きく転換させる公然たる自衛隊の海外派兵の第一歩＝戦争政策が強行されようとしている。

自衛隊のリムパック参加を許すな！

イラン革命、ソ連のアフガニスタン進攻、石油危機、金高騰など、全世界的な激動と戦争の危機の中で一九八〇年代は、幕明けした。

日本の支配階級は、こうした激動する世界情勢の中で、海外の権益と資源と市場を確保するためにむき出しの帝国主義的侵略政策を急ピッチで進めている。折からの「自衛隊スパイ事件」なるものを仰々しく宣伝し、反ソ＝反共意識をあおり、本格的な自衛隊強化＝国民の国防意識高揚の大宣伝の下で行われるリムパック参加は、こうした動きの端的なあらわれである。われわれは、この政府・支配階級の推進しつつある危機突破をかけた侵略政策＝軍事大国化と国内における三里塚二期工事強行策動・国鉄35万人体制攻撃などの極反動政治に対決する闘いを構築しなければならない。

総評をはじめ日本労働運動がますます右傾化し動労「本部」革マル反動集団の国鉄当局一体となった反動的攻撃の中で、われわれは、今こそ労働運動の原則を守り、闘い抜くことが必要である。

第一回 囲碁・将棋大会

日時・2月2日 10時より
場所・動力車会館
●試合方法は、囲碁・将棋とも個人戦として、A・Bクラス別に行います。1月31日までに支部を通じて、申し込んで下さい。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！